

令和3年度 第2回 としょかんだより

9月に入ったとたんに涼しくなって、あの暑かった8月は、いったいどこへやら？残暑厳しい新学期を覚悟していただけに、肩透かしを食った感じになりました。最近、秋の花、キンモクセイの香りに気づいた人もいないのでしょうか。少し寂しいですが、夏は駆け足で過ぎて行ってしまったようです。さて、としょかんだより2回目は3年生後半組です。



9月の祝日

9月20日 敬老の日

長い間、社会に貢献してきたお年寄りを敬い、長生きを祝う日です。



9月23日 秋分の日

国民の祝日の一つ。秋分の日には彼岸の中日にあたり祖先を敬い亡くなった人を偲んでお墓参りをする風習があります。



3年2組 佐藤 梨央 「透明水彩絵の具で」

私はイラストを描くことが好きで、毎日のように家で描いています。使う染料は透明水彩絵の具で、下書きはしないで、直接、筆に色を乗せて描いています。あと、これを言うと驚かれますが、私の場合、完成することは滅多にありません。描いてる途中で新しいアイデアが浮かんだり、他に描きたいものが出てくると気持ちがそっちに移ってしまって書く気がなくなってしまうからです。でも、完成しなくてもいいと思っています。私にとって大事なものは、絵の完成度じゃなくて、集中して描いている時の“気持ち良さ”だからです。顔の角度と表情に違和感なくマッチするヘアスタイル、首、肩、腕の動き、指先の形。一連の流れの、“超集中状態”“ゾーンに入ってる”って感じ。それは他では味わうことができない感覚で、正に聖域。スピリチュアルなんです。私にとって絵を描くことって？ 日常すぎて考えたこともなかったけど、敢えて言葉にするなら、自分を取り戻す時間、自分を自由にしてあげる時間って言えるのかも知れません。だから将来、社会人になっても、結婚して子供が生まれても、疲れていても、眠くても、絵を描くことは続けているだろうと思えるんです。



透明水彩画の世界

単色の透明水彩絵具の発色は、他の画材で再現することが難しいほど透明感に溢れる美しいものと言われています。佐藤さんが透明水彩絵の具を使うきっかけになったのはイラストレーター“時雨”の作品です。興味のある方は検索してみてください。

3年1組 森本 優輝 「やっぱり、DJってスゴイ！」

私には趣味がたくさんあって、DJ、サーフィン、友だちと電車で行くこと、母親とアクセサリーと一緒に作ったりもします。どれも楽しいですが、私が一番夢中になれるのはやっぱり“DJ”だと思います。去年もこの場で紹介したのですが、ライブで会場が一体になっている動画とか見ると、エキサイティングで、見入ってしまいます。私もDJの曲作りができるようになりたいくて、技術を教えてくれる友だちの家に行って教えて貰っていました。いまはコロナのことがあるので、電話で教えてもらって家で練習しています。DJの中には4曲を組み合わせるスペシャリストもいますが、2曲を組み合わせるのが普通です。2曲でも曲と曲をつなぎ合わせるつなぎ目のところが難しく中々できなかったのですが、最近できるようになったので、曲作りが楽しみになりました。いつか、クラブハウスで演奏なんてできたら最高！っすね。私の好きなDJは“アヴィーチ”です。興味を持った人はYouTubeで見てみてください。



3年3組 平澤 瑠葵 「ラノベ入門編」

私はライトノベル小説のファンです。ライトノベル、いわゆるラノベというのは、SF・ファンタジーといった異世界ものが多くて、魔法・超能力・ミステリーといった現実にはあり得ない設定で、あり得ない事件が起こって物語が進んでいくのが一般的です。本のサイズは殆どが文庫サイズ。長さは上下巻で完結しているものから、30巻以上のものであります。内容は簡単でも、伏線の回収が見事で感心する作品が結構あります。出版レーベルの数はとにかく多くて、角川グループだけでも電撃文庫・角川スニーカー文庫・富士見ファンタジア文庫・角川ビーンズ文庫・ファミ通文庫・MF文庫J(まだあるかも)があります。活字ですが、マンガやアニメのノリで楽しむことができるので、たくさんの人に読んでほしいと思います。そこで、これからライトノベルを読もうと思う人にジャンル選びのアドバイスをします。まず、作者名で決める。ゲームを手掛けている作家もいるので、ピンとくるかも。次にインスピレーションを働かせて、表紙のキャラクターや表紙のイメージで決める。あとは、キーワードで検索するです。例えば、ファンタジー+ギャグ。戦闘+魔術。といった感じです。ちなみに私は戦闘系が好きで今回紹介するのは戦闘+ラブコメのデート・ア・ライブ(：橘公司 ファンタジア文庫)という作品です。

オススメポイント

デート・ア・ライブは、小学校5年生の時に初めて読んだ最初のライトノベル小説です。メインヒロインとその他ヒロインが主人公を取り合う王道物です。カッコいい戦闘シーンを繰り広げながら女の子を救う場面はとても感動します。主人公に名前を貰い笑顔が浮かべるのが私の中でとても好きなシーンです。主人公に救われながらも主人公を支えるメインヒロインは純粋でかわいらしいキャラだと思います。他の登場人物も個性的で、ギャグをいうキャラや、心優しいキャラまで幅広くいます。全22巻。九十九里高校の図書館にも1巻から6巻まであるので、ぜひ、読んでほしいと思います。